

# 月刊 **G S** グラフィックサービス

## No.891 2026 2

### JaGra の 年男年女



愛知県支部  
株式会社大元堂  
水谷 元泰さん



ジャグラ顧問  
東京・新宿支部  
NS印刷製本株式会社  
中村 耀さん



東京・文京支部  
株式会社宛名商会本店  
山上 慎介さん



東京・新宿支部  
株式会社文優社  
土屋 将貴さん



東京・文京支部  
株式会社代田ファクトリー  
熊谷 俊明さん



東京・中央支部  
株式会社研美社  
西岡 佐記さん



秋田県支部  
株式会社東海林印刷  
東海林正豊さん



ジャグラ事務局  
笠原賢一郎さん

#### ■ 巻頭企画

## 年男・年女2026 — 丙午

#### ■ 巻頭言

### セットアップー

— 秋田県支部支部長/株秋田情報プリント 高橋 大輔

#### ■ 特別企画

### 会員拡大に向けて

— 全国協議会ディスカッションより —

#### ■ 連載

SPACE-21 広報部

### Next-Oita 12月セミナー報告

#### ■ NEWSとお知らせ

ジャグラ作品展募集

日印産連 経産省とハイレベル面談を実施

バリヒューマンリソースストラテジーフォーラム

CONTENTS

■ 巻頭言

1 セットアップー

秋田県支部支部長／(株)秋田情報プリント 高橋 大輔

■ 巻頭企画

2 年男・年女 2026 一丙午

■ 特別企画

6 会員拡大に向けて

ー全国協議会ディスカッションよりー

■ 連載

SPACE-21 広報部

24 Next-Oita 12月セミナー報告

■ NEWSとお知らせ

10 ジャグラー作品展募集

22 日印産連 経産省とハイレベル面談を実施

26 パリヒューマンリソースストラテジーフォーラムに出席

■ NEWSとお知らせ

5 ジャグラーテスト第4期実施報告

21 ジャグラーBBホットニュース

27 業界の動き

日印産連 10 団体で賀詞交歓会

ジャグラー 地域活性化委員会 ジャグラーコンパスを PR

岩手県支部 新春講演会と新年交賀会を開催

ホリゾン スマートソリューションフェア 2026 開催

文仲寄稿 「東京諸島アンテナショップ」の進化とチャレンジ

20 雑学コラム⑧

29 事務局日誌と今後の予定

12 学校法人日本プリンティングアカデミー後援会

13 富士フィルムグラフィックソリューションズ(株)

14 リコージャパン(株)

15 (株)ショーワ

16 (株)モリサワ

17 (株)モトヤ

18 東京リスマチック(株)

19 ホリゾン・ジャパン(株)

20 (株)研美社

表4 リョービ MHI グラフィックテクノロジー(株)

月刊グラフィックサービス 発行趣意

月刊『グラフィックサービス』は、一般社団法人日本グラフィックサービス工業会会員、関係諸団体およびすべてのステークホルダーの皆様へ、自社の質的向上に役立ち、知恵と勇気を分かち合うことを目指し発行するものです。

本会の存在意義である人間交流スペースを構築し、社会の多様な要請にタイムリーに対応しつつ、共通の経営課題を持つ会員をネットワーク化し、その交流を積極的に支援するとともに小さいことでも有利となる経営施策も発信する情報ターミナルとなることを理想とします。

またその情報発信手段は誌面にとどまらず、環境に応じて多様な発信方法を検討、遂行することを責務とします。

【概要】

発行回数

月1回/年間12回

配布方法

・全会員へ直接郵送

購読料

ジャグラー会員は無償(会費に含む)

・ジャグラーホームページからのダウンロード

・希望企業、団体への有償配布

本誌へのご意見・ご要望・記事提供は下記宛お寄せください

Eメール [edit@jagra.or.jp](mailto:edit@jagra.or.jp) 電話 **03-3667-2271** ファクス **03-3661-9006**

お手紙 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16 〒103-0001 (一社)日本グラフィックサービス工業会 宛

# セットアップー

秋田県支部支部長／(株)秋田情報プリント

## 高橋 大輔



昨年、秋田県支部の支部長を拝命しました、株式会社秋田情報プリントの高橋大輔と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

皆様はわたくしの事など知らないでしょうから、簡単に自己紹介をさせていただきます。昭和52年10月30日、秋田の地でわたくしは生まれました。巳年、さそり座、A型、現在48歳の男子です。小・中・高と親のスネをかじりながら好き勝手、思うがまま(思い通りには何一つしていませんが……)、遊びほうけて子供時代を過ごしていました。ジミ・ヘンドリックスやオーティスレディング、尾崎豊などのように、天才は26～27歳には死ぬのだと本気で思っていました。自分もそれくらいの年齢で死ぬのだと本気で思っていました。馬鹿です。残念ながらわたくしは凡人でしたので今も生きているのです……。

何がきっかけか、このままではまずいと思い、父親に頭を下げて仙台の専門学校に通わせてもらいました。その2年間はおそらく我が人生で初と思うほど勉強をしまして、専門学校ではありますが首席で卒業させていただきました。その後、もう少し勉強するのか就職するのか考えているうちに4月になりまして、秋田に帰ります。慣れない事をしたせいで電池切れをしたのか、いろいろ活動はしていましたが、結局5月に父親が専務をしている現在の会社の前身、南波孔版印刷でお世話になることになりました。

これが事故のはじまりでした。腰掛のつもりで入社したものの自称責任感が強いわたくしは、仕事を一生懸命頑張りました。最初に配属されたのはDTP部門で、仕事は早いですがデザインセンスはありませんでした。

その2～3年後に先代々の南波社長がお亡くなりになり、専務だった父親が会社を引き継ぐことになったのです。これが事故②です。直ちに営業部門に配置転換され、馬車馬のように働かされました。ただこれ自体は向いていたのかはわかりませんが、楽しい時間だったと思います。お客様はもちろん、丁度この頃から青年会議所にも入り、いろいろな人に出会えたことが良かったかもしれません。腰掛という気持ちは既になくなっていったと思います。

そして、7年後に事故③が起こります。現在の社屋に引っ越しした2か月後、父親が急死するのです。借りたばかりの借金を残して……。わたくし30歳の年です。その翌年にも雇い入れた友人が急死する(事故④)など、サブプライムの直接的な影響はありませんでしたが、次から次と東

日本大震災、コロナ、離婚、身内の裏切りなど数えきれない多くの事故に、本当に日々精神を鍛えられ、現在に至ります。

だいが前置きが長くなってしまいましたが、ジャグラーには30歳の年から、支部役員として関わらせていただき、約18年になります。秋田県支部ではコロナ前まで会員社員が参加するレクリレーションも開催していましたので、入社してからずっとジャグラー自体は近くにありました。

そんなわたくしが支部長をお引き受けしたのは、長年支部理事会の中で、一人で引っ張ってこられた松原前支部長、その松原さんを支えてこられた滝本副支部長、秋田のレジェンド熊谷社長、東海林会長とバリバリだったと思っていた理事メンバーの皆さんが、気づいたら結構、お年を召されていたという……。昨年、東北地協大会を秋田で主管させていただいて改めて思い知らされました。それもそのはずです。18年前は自分ももっと若かったのですから。ですので、わたくしの使命としましては、長年歴史を紡いでこられた先輩諸兄の想いを次代へ繋ぐことだと考えております。その場に居合わせてしまったという事故のような気もしますが、少しでも恩返しできればと考えております。

秋田県支部では今年度より、今までの理事会構成メンバーに加え、幹事としてレジェンドお二人のご子息達を含め、精鋭4名をお迎えして、より多くの人に参画してもらえる支部運営、永続的な支部運営を目指して、組織改革に取り組んでおります。わたくしとの与えられた任期2年の中で、セットアップーとして会員拡大も含めて、世代融合を進めながら次の支部長が少しでも運営しやすい体制を整えていければと考えております。皆様方のご指導を切にお願い申し上げます。

話は変わりますが、秋田県。東京駅から新幹線で約3時間50分。同じ東北の皆さんからも遠いと言われ、陸の孤島と自虐することもあります。とっても良いところ。山があり、海があり、飯がうまい、酒がうまい、秋田美人も……。いるかも知れません。(我が家にはいます)何も無いと若い人達は言ったりもしますが、遊ぶ気になれば遊ぶところもいっぱいあります。自分が遊んでいます……。機会がありましたら秋田にも是非お越しいただければと思います。拙文大変失礼いたしました。



# 年男・年女 2026

2026年の幕が明けました。昨年は大阪・関西万博が開催され、新しい技術や多彩な文化に触れる賑やかな空気を楽しみました。こうした変化を間近に感じるなかで、「これからの暮らし」や「自分自身の在り方」について、あらためて考えを巡らせた方も多かったのではないのでしょうか。今年はイタリアで冬季五輪も開催されますが、ひたむきに己を磨く選手たちの姿は、私たちに自分らしく歩むことの清々しさを教えてくれるはずで

す。今年の干支は、60周期の43番目にあたる「丙午（ひのえうま）」です。この年は、停滞していた物事が勢いよく動き出す、パワフルなエネルギーに満ちていると言われています。世の中が大きく動く時だからこそ、馬が大地を力強く駆けるように、溢れる活力を勇氣に変えて、新しいステージへと大胆に踏み出していきたいものです。今回の特集「年男・年女 2026」では、節目の年を迎えられた会員の皆様から、熱い想いや抱負を語っていただきました。

## — 丙午



NS印刷製本株式会社  
中村 耀  
ジャブラ顧問

会員の皆様、いつもジャブラの活動にご協力いただき感謝申し上げます。昔は馬車馬のように働いたり、馬を飼ったりしていましたが、今年は健康第一で過ごしていこうと思います。



株式会社大元堂  
水谷 元泰

謹んで新春のお慶びを申し上げます。本年、年男の還暦を迎えますが、気持ちはこれまで以上に若々しく、新たな挑戦に燃えております。印刷業界は今、大きな転換点にあります。弊社でも従来の伝票・封筒等の事務用印刷やチラシ等の商業印刷の受注に加え、「紙とSNSの連動企画」「デジタル

化支援」[UVプリンターやレーザー加工機による紙以外の素材への付加価値印刷]へと、事業構造の転換を進めております。

厳しい環境下ではありますが、変化を恐れず印刷会社の枠を超えた新たな価値創造に挑み、泥臭く生き残りを図る所存です。

プライベートも「挑戦」がテーマです。バンド活動ではギターを担当しており、今年はライブ活動を再開する予定です。

また、もう一つの趣味のビリヤードでは、6年前に一度達成した団体戦の世界大会が行われるラスベガスへの切符を掴むこと。還暦の記念にもう一度立つべく、今期からはJaGra愛知の仲間もメンバーに加わってください、他の仲間と共に毎週のリーグ戦を戦っております。

今年は公私共に「再挑戦」の年として精進いたします。引き続きよろしくお願いいたします。



株式会社宛名商会本店  
山上 慎介

初めまして。東京グラフィックス文京支部の山上慎介と申します。私は今年で入会5年目を迎えました。またこの5年間は私の人生における大きな転機でもありました。結婚し、三人の子どもに恵まれ、社長に就任し、引っ越しも経験するなど、環境の変化が目まぐるしい日々でした。社長就任から2年目となり、経営の難しさと責任の重さを日々痛感すると同時にお酒とつまみの量も増えております。

入会してから多くの学びと信頼できる仲間に出会えたことが私にとって大きな財産です。

弊社は長年発送代行業を続けて参りましたが、時代の変化とともに姿を変え、厳しさを増しています。しかしこの時代に事業を続けられていること自体が挑戦であり、感謝すべきことだと感じています。

年男となる今年は、変化を恐れず、柔軟な発想と行動で新たな価値を生み出し、会社と自身のさらなる成長に挑戦してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。



株式会社代田ファクトリー  
熊谷 俊明

1978年1月8日生まれ。48歳になりました。正直なところ、「もうそんな歳か」という気持ちと、「まだまだこれからだな」という気持ちが、半分ずつあります。

「迷ったら負け、悩んだら負け」  
「100回の練習より1回の本番」  
「愛と妄想の世界」

社内で繰り返し言い続けていますが、これは自分に言い聞かせている言葉でもあります。

「こだわりが無いのがこだわり」

48～60歳のターンの始まりです。12年もありま

すが、人生で一番自由で、充実した時期になるはずで

す。このタイミングで、AIという「おもちゃ」が、道具として、相棒として、自然に仕事や日常に組み込まれていく。

この時期を経験できるなんて、すげーラッキー！今後どうなっていくのか、とても楽しみです。

先のことを楽しみにしながら、みんなで、よりよい未来をつくっていけたら嬉しいです。

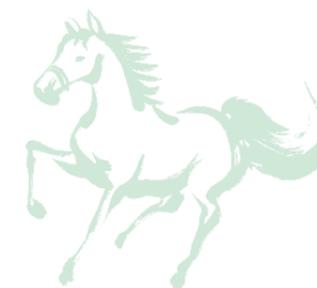


株式会社文優社  
土屋 将貴

みなさま、あけましておめでとうございます。32歳で会社を継いで、気づいたら16年目の48歳。これまで馬車馬の如くやってきました。しかし去年は業績を落とし、体重を増やしてしまったなんと無様な一年でもありました。そこで今年は働いて働いて働いて働きまくって業績回復、そして体重減を目標にしたいと思います。

スローガンは午(UMA)年にちなんで、Uまいごはんを沢山食べる！Maけない体力作りと減量！AIを取り入れて業態進化！です。

丙午の年は『火』の年で、とても強いパワーが溢れる年だそうです。自社の経営理念である『情熱解決』が大きく輝く年になるよう情熱に火をつけて、今年も頑張りたいと思います。ちなみに、紙に書いた目標は実現できるらしいということで、印刷業らしく紙に書いて貼りました！ぜひこれらが実現できる一年にしたいと思います。みなさまにとっても全てがUMAくいく素晴らしい一年になりますように！！





株式会社研美社 取締役  
西岡 佐記

JaGra では日々皆さまに大変にお世話になっております。代表の中田と共に大阪から東京に営業所を設立した 18 年前。JaGra に出会う前は、東京砂漠がふと頭をよぎる、孤独を感じる日もございましたが、JaGra 入会で沢山の方々のご縁を頂くことができました。まだまだ駆け出しですが、JaGra アプリをはじめ、色んな挑戦の機会も頂き日々感謝いたしております。

本年、午年。年女ということで 36 歳だと思っておりましたが、どうやら 12 年前の出来事だったようで干支が、もう 1 周しておりました…。新年のご挨拶とともに、今年の抱負を少しお話をさせていただきます。

節目という言葉は毎年意識しますが、今年は年女でもありますので重みを感じます。39 歳で研美社の取締役となり、気づけば 9 年目。これまではとにかく走る、走る、また走る。スピード重視、とりあえずやってみる。振り返れば、考えるより動く、勢いに任せた“がむしゃら期”でした。色々挑戦できる環境でしたが、伴走してくれる仲間・先輩がいたからこそ、今生かされているとそのありがたさを、年々強く感じております。

私の今年の誓いは三つあります。

「継続・挑戦・そして、断つ」

継続するとは、ただ同じ速度で走り続けることではなく、「信じて、結果にたどり着く走り方を選び続ける」こと。がむしゃら期から、いびし銀の入り口に立てる一年にしていきたいと思っております。

挑戦することからも逃げないようここで誓っておきます。昨年末から、研美社ではいくつかの新しい試みを始めました。“カード×印刷×デジタルコンテンツ”ひとつは東京八丁堀の 1F 事務所に NFC 商材が体験できるショールーム「The CORNER」を OPEN させました。デジタル名刺をはじめ、産学連携でクラウドファンディングにも挑戦した、スマホアプリと NFC カードを使った、オリジナルカードゲーム「アニマル・ピコタッチ」もショールームで体験頂けます。東京駅

からも近い場所なので、是非 JaGra の皆さまにもふらっとお立ち寄りいただけたら嬉しいです。

そして三つ目が、「断つこと」。これが今年、私にとって最も重要なテーマかもしれません。情報が溢れ、やろうと思えば何でもできる時代。気づけばマルチタスクに追われ、すべてが中途半端にならないよう、今年は「何をやるか」よりも、「何をやらないか」を意識した行動で思考のキャパを整える変化の年にしたいと思えます。1 年後、この記事を自分自身で読み返したとき、「ちゃんと前に進んでいたな〜」と思えるように一日一生として大切に歩み、その結果ダークホースを狙います w 本年もどうぞよろしくお願いいたします。



株式会社東海林印刷  
東海林 正豊

お恥ずかしながら昨年は父親が年男、今年は私と親子で 2 年連続表紙を飾らせていただいております。よく「もう 60？」と言われるがまだ 48 歳で、いつになったら見た目に年齢が追いつくのか。会社は今年で創業 75 周年を迎えます。100 年企業になることを当面の目標にしていますが、それまであと 2 回年男を迎える必要があり、道のりはまだまだ長いです。過去を振り返ると 24 で結婚し、36 の時は会社のオフセット印刷機を全部捨ててグチャグチャやっていたころと、それぞれ大きな転機に直面した年でした。おそらく今年も何かあるでしょうし、100 年企業になるには少なくともあと 2 回は大きな何かを乗り越えなければいけないだろうなと感じています。でも午年生まれなのできっとウマくいく。そう気楽に考えていると思っています。

今年の抱負は特になく、健康に過ごせれば言うことなし！……とここまで書いて去年の GS を見たら親父もまったく同じことを書いてました。

こんな親子ですが今年もどうぞよろしくお願いいたします。



ジャグラ事務局  
笠原 賢一郎

気づけば今年も年男です。これまで干支を意識することはほとんどありませんでしたが、今回は、妙に自分ごととして受け止めています。仕事でも生活でも、年齢を重ねるほど、前へ進むにも力の使い方に幅が出てきたと実感する場面が増えてきました。48 歳にして新人として日々を過ごす中で、若い頃のように勢いだけで進むのではなく、状況を見ながら歩み方を整えることがなんとなく自然になってきた気がします。

そんな日々の中、これも年齢なのでしょうか、自分

のこれからの思いを巡らせることが増えてきました。環境の変化に戸惑うこともあります、それもまた新しい学びだと感じています。午年といえば勢いよく駆けける姿が思い浮かびますが、今の自分はその勢いよりもどこへ向かうかを大切にしたいと感じています。これまで続けてきたことを土台にしつつ、少しだけ視野を広げてみる、そんな心持ちで過ごす一年にできればと考えています。



## ジャグラテスト第 4 期実施報告

InDesign・Illustrator の 2 科で受験者募集、12 名をジャグラ認定 DTP オペレーターとして認定

ジャグラコンテスト委員会（委員長：笹岡誠理事）が主催する DTP オペレーション技能試験「ジャグラテスト第 4 期」が実施され、受験者 72 名のうち 12 名が認定基準を満たし、高度な DTP オペレーション技能を有することを証明する「ジャグラ認定 DTP オペレーター」として認定されました。

ジャグラテスト第 4 期では、印刷物制作現場で取り組む可能性の高い下記課題が提示されました。受験者は制作課題の問題文と仕上がり見本を読み解き、指示通りのデータを制作し提出。審査員は受験者の提出データを一件ずつ確認し、採点基準に従って採点を行いました。



### ジャグラテスト第 4 期制作課題

#### • InDesign

1. 定期刊行物の制作
2. ガイドブックの制作
3. タブロイド紙の制作

#### • Illustrator

1. 店舗フライヤーの制作
2. 名刺の制作
3. 住宅キャンペーンチラシの制作

結果通知には、課題ごとに設定された点数しきい値を基準に、A～E の 5 段階でオペレーション技能の習熟度が示されています。認定 DTP オペレーターの認定基準は、全制作課題でレベル B 以上の判定を受けた受験者をシルバー認定、全課題でレベル A 判定を受けた受験者をゴールド認定としています。

#### ジャグラテスト今後の実施予定

ジャグラテスト第 5 期の受験者を 2026 年 6 月より募集開始予定です。第 5 期も InDesign・Illustrator の 2 科で受験者を募集します。詳細は Web サイトをご確認ください。

<https://www.jagra-contest.com/jagratest/>

# 会員拡大に向けて

## — 全国協議会ディスカッションより —



ジャグラの正会員数は1月29日現在で703社とピーク時の半数となっています。情報伝達メディアの多様化により、ペーパーレス化が進み、人口減少とデジタルデバイスと通信網の発達によって、さらに印刷需要が縮小したことで、ピーク時に10兆円規模も視野に入っていた印刷市場が今では5兆円を切っています。マイナス要因を挙げればきりはありませんが、一方である業界団体会長が会議の場で、「こんな時に業界団体に所属しない経営者の気がしれない」と発言するように、印刷業界の競争は同業だけでなく、あらゆる情報産業となっており、先行き不透明な経済情勢も相まって中小企業単体で船出するのは危険な状況です。



ビジネスモデルが多様化する中でジャグラが正確な羅針盤を会員に提供することは難しい。しかし、諸先輩が築いてきた進化を求め続ける印刷集団としての気概、気風、そして真のグラフィックサービス業への転換を展望するジャグラを通じて「会員の輪を広げること」が、業界と組織の未来を創り出すカギであると考えています。

ジャグラが目指す「会員拡大」とは、単なる数の拡大ではありません。新たな会員の参画によって、知見・経験・価値観の多様性を取り込み、組織全体の成長と活性化を図ること。そして、今あるネットワークを深化させ、世代や業種を超えた“新しいつながり”を生むこと。それこそが、持続可能な業界をつくるための「仲間づくり」であり、価値を次世代につなぐ“未来への投資”になると確信しています。こうした本質的な意義をふまえ、組織的かつ継続的に地協・支部の会員拡大を支援していくため、今年度、常設の「会員拡大委員会」を設置しました。

昨年11月7日に開催された全国協議会のグループディスカッションでは、会員拡大委員会が地協、支部を後方支援するため、地協単位の会員拡大施策と活動目標スケジュールを検討し、発表していただきました。

本稿では各地協が発表したアクションプランをご紹介します。（※全国協議会後に具体策を修正した地協もあります。あくまでも11月7日時点のアクションプランです）



## 会員拡大に向けた具体的アクションプラン

2025年11月7日に開催された全国協議会の「テーブルディスカッション」では、全国10の地域ごとにテーブルに分かれ、「会員拡大」をテーマに、模造紙を囲んで白熱した議論が交わされた。ディスカッション後には各地域の実情に即した課題と、それを乗り越えるための具体的なアクションプランが発表されました。



兵庫の作本支部長

### 北海道

広大なエリアゆえの情報伝達不足を最大の課題とし、会員への情報到達率の低さを懸念。

#### アクションプラン

Zoomの活用や会費免除などの大胆な施策で組織の再構築を図る。関連業との連携を深め、情報を末端まで届けることで活性化を目指す。新しい層へのアプローチとして、Space-21への参加促進なども掲げた。

### 東北

「東北は一つ」を合言葉に結束を図るが、広大なエリアゆえの集まりにくさと、青森県支部の休会状態が課題。

#### アクションプラン

最大の課題である休会中の青森県支部の復活を最優先事項とし、事務局体制の強化を掲げた。印刷工業組合との合同新年会などを活用し、インク組合員へのアプローチを進めるとともに、異業種への勧誘も強化し、全体での会員拡大を目指す。



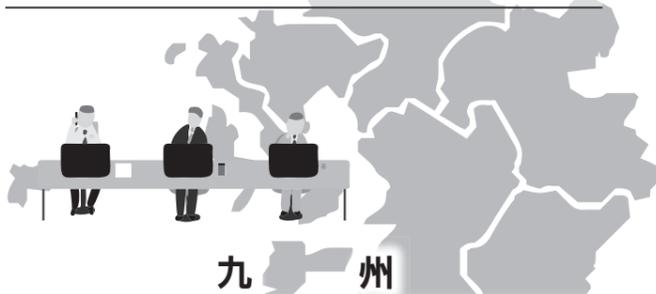


## 中国

情報の共有と人材育成ができる地協を理想とするが、物理的な距離の壁が課題。また、後継者の顔が見えないという懸念も共有された。

### アクションプラン

接触回数を増やすため、各県支部主催のイベントを年1回必ず開催し、地協全体で盛り上げる。また、青年部活動を活性化させ、会員外も巻き込むことで次世代の会員候補を育成する。2026年10月までの会員拡大を目指す。



## 九州

4県という広域かつ少人数で、勉強会の開催が難しいという課題がある。地協の存在意義を「明日への糧を得られる場所」と再確認した。

### アクションプラン

4県合同でのセミナー開催やリモート活用の強化を提案。ターゲットとして製本組合やTシャツ・アクリル加工業者など、他業種・他団体へのアプローチを強化する。各県での着実な会員拡大を目標とし、2026年1月の新年会などでPRを行う。

## 近畿

永続的に発展し会員が増える組織を目指し、現状の課題として支部間の温度差を挙げた。

### アクションプラン

解決策として、地協事業へのゲスト勧誘を強化することを決定。具体的には2026年2月に京都で開催される地協事業にターゲットを絞り、そこでジャグラの魅力伝えていく。「コツコツとした活動が大事」とし、着実な会員拡大を目指す。

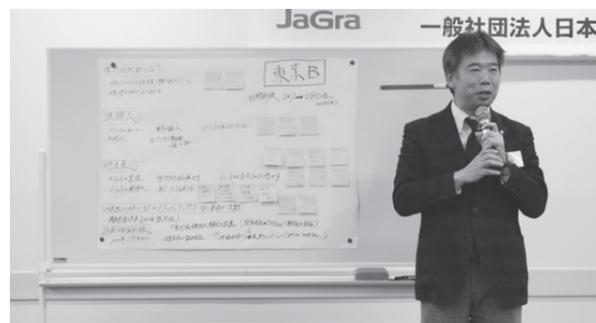


## 四国

高齢化と、会員企業同士でも互いの得意分野を知らないという情報共有不足が課題。

### アクションプラン

地協ポータルサイトの作成を提案。互いの仕事内容を知り、スケジュールを共有する基盤を作る。また、Adobe認定講師(会員)によるDTPセミナーを活用し、社員教育の場として魅力を高めるほか、若手不在の課題に対しSPACE四国の立ち上げも視野に入れる。2027年3月までの会員拡大を目指す。



東京・三多摩の川井支部長

## 北陸

会員減少による支部消滅の危機感を共有。近隣支部との交流基盤としての地協の役割を再確認した。

### アクションプラン

3県(富山・石川・福井)で連携し、地道な勧誘活動を展開する。まずは情報を投げかけ、判断は相手に委ねるスタンスで活動量を増やすなど、着実な増強を目指す。

## 東海

北陸同様、会員減少への危機感を共有。「相手を選ばずに声をかける」ことの重要性を確認した。

### アクションプラン

「あそこは無理だろう」と勝手にハードルを上げず、幅広く声をかけていく。具体的なターゲットリストの作成とアプローチを進め、愛知・静岡などでの純増を目標に掲げた。



### 岡本会長総括 「いつ・どこで・何をやるか」

各グループの発表終了後、総括として岡本会長が登場しました。

会長は、各地域の悩みや多様なアイデアが出されたことを評価する一方で、多くの発表が願望や方法論にとどまっている点を指摘。「重要なのは『いつ・どこで・何をやるか』という具体的な計画だ」とし、精神論で終わらせず、実行に移すためのロードマップが必要であると説明しました。

## 関東

東京を取り囲む立地特性を活かしつつ、情報共有不足と活動のマンネリ化を打破する必要がある。

### アクションプラン

「関東ハブ」アプリの開発構想を発表。資料や連絡先を共有できるプラットフォームを目指す。営業面ではピンワークやジャグラコンパスを活用し、他団体も巻き込んだ活動を展開。魅力ある地域活動を通じて、会員拡大を目指すとした。

## 東京A

「楽しくなければ組合じゃない」をコンセプトに、真面目で活発な勉強会と意見を言いやすい環境づくりを目指す。課題は支部員の減少と後継者不足。

### アクションプラン

ユニークな施策として、毎朝のZoom配信を「朝ドラ」のように定着させ、スピーチや心をつなぐ活動(エイエイオーなど)を行ってはどうかというアイデアが出された。また、お試し会員制度の整備やビジネスマッチングサロンの活用も強化し、さらなる会員拡大を目指す。

## 東京B

理想は「地域活性・地産地消・共存共栄」。課題として、メリットの曖昧さや会員情報の不達、高齢化などが挙げられた。

### アクションプラン

「メリットの見える化」を推進し、入会キャンペーンの実施や、女性だけのイベント開催など、新しい切り口でのアプローチを提案。また、会員拡大委員会の設置や、協力会社への積極的な声かけを通じて、2027年5月までに大幅な会員増を目指すという野心的な目標を発表した。



# 人財育成への支援を通じて



会長

浅野 健

(株)金羊社  
取締役会長



副会長

作道 孝行

作道印刷(株)  
代表取締役



副会長

岡本 泰

(株)クイックス  
代表取締役社長

業界の「未来」を創る。

日本プリンティングアカデミー後援会

## 会員募集中 50<sup>会員</sup>突破!

当後援会は、次世代を担う印刷関連産業人の「教育」と「成長」の支援を目的とした会です。私たちは、印刷業界に特化した教育機関である JPA への支援を通して、印刷業界で活躍できる次世代の人財育成をサポートしています。また、本会が会員同士の新たなビジネスネットワークの構築・ビジネスモデルの創出のきっかけになればとも考えております。

印刷業界の「未来」を創る = 人財育成の支援のために、ぜひ本会にご入会いただけますようお願い申し上げます。

### 年会費 入会特典

法人会員 **30,000**円  
個人会員 **10,000**円

**JPA 主催セミナーの割引**  
JPA が主催する社員向けのセミナーが、特別価格でご利用いただけます。新入社員～管理職者向けまで企業の人財育成戦略に合わせた各種研修が受講できます。  
※詳細についてはお問い合わせください。

### 入会方法

右の QR コードを読み取っていただき、入会申込フォームに必要事項を入力の上、お申込みください。申込が確認でき次第、事務局よりご連絡いたします。



お問い合わせ 電話 03-3811-2734 後援会事務局 中村まで 平日 9:00 ~ 17:30 メール koenkai@jpa.ac.jp ※件名に「JPA 後援会」とご記入ください。



### 日本プリンティングアカデミーとは？

1978 年に、共同印刷株式会社をはじめとする業界関連企業からの支援で創立された、東京都認可の専門学校・Off-JT 教育機関です。創立より、「印刷業界の事業革新と社会的価値向上に貢献できる人財を育成する」を教育理念に掲げ、これまで約 1,000 名以上の卒業生を輩出しています。また、Off-JT 教育機関として年間 200 名を超える社員の研修も行っています。

# FUJIFILM

Value from Innovation



アイデアを、響くカタチに。  
ビジネスを、もっと自由に。

いま、印刷ビジネスにおいては、「オーダーに忠実に応える」だけでなく、クライアントの本質的な課題を理解し、的確な提案によって解決に貢献することが求められています。そこでカギになるのは、真のニーズを捉える「分析力」、課題解決のアイデアやプランを編み出し提示する「企画提案力」、そしてそのアイデアをカタチにする「創造力」。今回、富士フィルムは、デジタル印刷機を含めた最新のデジタルツールを活用することで、これらの力をどれだけ高められるのか、そしてどんな価値の提供が可能になるのか、具体的な成功事例を交えながらお伝えします。次世代プロダクションプリンター「Revoria Press PC2120」の実機展示や、例年以上に充実したサンプルコーナーなど、見どころ盛りだくさんの富士フィルムブースに、ぜひお越しくださいませようご案内申し上げます。

### FFGSセミナーのご案内

日時：2月20日(金) 11:20~11:50  
場所：サンシャインシティコンベンションセンター 文化会館4階 展示ホールB セミナーエリア (富士フィルムブースと同じフロア内)  
講師：パラシュート株式会社 代表取締役社長 兵藤 伊織 氏  
富士フィルムグラフィックソリューションズ株式会社 DX統括部 担当課長 磯部 剛史



兵藤 伊織 氏



磯部 剛史

■テーマ  
上流ワークフローの  
スマートファクトリー化による利益創出



◀お申込みはこちら  
※定員になり次第  
締め切らせていただきます。

## page2026

2026 2/18Wed-2/20Fri  
サンシャインシティコンベンションセンター  
展示ホールB

富士フィルムグラフィックソリューションズ株式会社 富士フィルム ビジネス イノベーションジャパン株式会社

## 印刷業界の人財育成なら当校にお任せください

**専門学校** 「今」の印刷業界で働くために必要な知識・技術を総合的に学べます。  
—プリント・コンテンツ学科 (1年制)  
—メディア・コンテンツ学科 (2年制)

**企業研修** 実機を使いながら学べる業界特化型研修で、企業が抱える人財育成における課題を解決します。  
—ベーシック研修 —カスタマイズ研修  
—業務別講座



### 入学者 & 受講企業募集中

学校法人 **日本プリンティングアカデミー**  
〒112-0002 東京都文京区小石川 4-13-2 平日 9時00分 ~ 17時30分

電話 03-3811-2734 FAX 03-3811-3557  
メール info@jpa.ac.jp 印刷 専門学校 | Q



# 印刷業の未来を 共に創る



プリントコンパス 検索



## ユーザーサポート こそ商品

株式会社ショーワは、謄写版および付属品の販売と謄写印刷業の「昭和謄写堂」として、昭和3年に幅弓之助が創業しました。創業者の幅弓之助は「良いものを売り、売ったものには責任を持つ事」に頑固なまでにこだわり続け、そのこだわりは創業から100年に向けて今なおショーワの社員一人一人にDNAとして脈々と受け継がれています。

長きに渡り、多くの取引先企業様より厚い信頼を寄せて頂けるのも、企業理念にもあります様にユーザーサポートという目に見えない、形のない「商品」だからこそ、付加価値を創造し続け、溢れる情報、市場状況を正確に分析・判断しうる知識とユーザーサイドで常に物事を考える「誠意」が評価して頂けているものと考えています。

今後も常に「ユーザーサポートこそ商品」の企業理念、創業者・幅弓之助の熱い志を胸に社員一同業務につとめていく所存です。

### 21世紀のグラフィックアーツを共に考えるショーワユーザー会

コラボレーション&リサーチ ユーザー会で密に情報交換

**SHOWA会**

- 年間活動
- 研修会 ○工場見学 ○総会・幹事会
  - 会報・メールマガジンの発行 ○有志グループ活動

問い合わせ、入会お申込みは事務局まで  
**SHOWA会事務局 TEL.03-3263-6141 FAX.03-3263-6149**



プリントメディアの総合商社  
<http://www.showa-corp.jp/>

# 守 守 在 由

文字とつながる。  
世界がひろがる。



Morisawa Fonts

デスクトップフォント

8書体まで利用可能 **Select8**    24書体まで利用可能 **Select24**    上限なく書体を選択可能 **スタンダードプラン**

Webフォント

サイト規模やプロジェクト数などに合わせて選べるプラン  
**Webフォント / Webフォント Lite / Webフォント Pro**



morisawafonts.com

# いろいろなコト は モトヤにご相談ください!!



琴音 愛

※詳しくは…



皆様と共に歩み続けるモトヤは、  
皆様のお困りごとを解決する  
「コトウリ」のご提案を続けます。

## そして、 SDGsのゴールの実現に 協力していきます。



— 2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」への取り組み —

### 印刷現場の環境改善を考える



環境対応資材

ECO no MISTは、  
お客様と共に「環境」と「価値」を考える  
モトヤの資材ブランド。  
消耗品による環境改善を実現します。

※詳しくは…



※詳しくは…



多くの人へ情報やイメージを伝えていく  
美しく、効果的に。  
社会への負荷も可能な限り抑制していく  
サインシステムの枠を超えた、ルーファス。

人に、社会に、ルーファス



内照式ファブリックサイン

### 印刷業界の人材採用をお考えの企業様

◇社員紹介 ◇紹介予定派遣 ◇人材派遣 ◇業務委託などのご相談は…

モトヤ **キャリアエージェント部** へ

大阪 ☎(06)6358-9124 / 東京 ☎(03)3523-8719

人材派遣業 派 27-030254 / 人材紹介業 27-ユ-030174



印刷のソリューションプロバイダー



大阪 〒530-0038 大阪市北区紅梅町 2-8 ☎(06)6358-9131(代)  
東京 〒104-0032 東京都中央区八丁堀 4-5-5 ☎(03)3523-8711(代)  
横浜・千葉・名古屋・京都・神戸・姫路・福岡

# TOKYO QUALITY.

すべてのSPコミュニケーションに最良の品質を。



**Horizon**  
Change the focus

## Horizon Smart Factory 2026 in HIP

# 無人化との共存

FIRST TOUCH

[For Japan Days] 国内プログラム期間

**28** WED - **30** FRI  
**Oct. 2026**  
10:00 - 17:00

[For International Days] 海外プログラム期間

**4** WED - **6** FRI  
**Nov. 2026**

株式会社ホリゾン 本社びわこ工場内 Horizon Innovation Park  
(滋賀県高島市新旭町旭1600)

2026年、ホリゾンは「無人化との共存」という新たな領域に挑みます。

本イベントでは、印刷・後加工・梱包・運搬の全工程で実現された無人システムをさらにブラッシュアップ。

AGV、ロボット、さらにはドローンなど自律型技術を駆使し、人の介入を最小限に抑え、実際の印刷・製本現場での実運用を想定したフローを構築。

「無人化」に到達した次の挑戦。  
新たな未来を切り拓くファクトリーオートメーションの姿を Horizon Innovation Park でご体感ください。

主催：ホリゾン・ジャパン株式会社 / ホリゾン・インターナショナル株式会社 / 株式会社ホリゾン

協賛：キヤノンマーケティングジャパン株式会社 / ダックエンジニアリング株式会社 / 富士フイルムビジネスソリューション株式会社  
ハイデルベルグ・ジャパン株式会社 / 株式会社 JSPIRITS / コニカミノルタジャパン株式会社 / リコー・ジャパン株式会社  
理想科学工業株式会社 / リョービ MHI グラフィックテクノロジー株式会社 / 株式会社 SCREEN グラフィックソリューションズ

協力：株式会社パリュマシーンインターナショナル



最新情報はこちら

ホリゾン・ジャパン株式会社 [www.horizon.co.jp](http://www.horizon.co.jp)

本社 〒101-0031 東京都千代田区東神田2-4-5 東神田堀商ビル5F TEL.03-3863-5361(代) FAX.03-3863-5360  
東京支社 〒132-8562 東京都江戸川区松江5丁目10-9 TEL.03-3652-7631(代) FAX.03-3652-8083  
京都支社 〒601-8206 京都府京都市南区久世大藪町510 TEL.075-933-3060(代) FAX.075-933-4025  
福岡営業所 〒813-0034 福岡県福岡市東区多の津4-12-17 TEL.092-626-8111(代) FAX.092-626-8112  
仙台サービスセンター 〒984-0002 宮城県仙台市若林区卸町東1-7-31 TEL.022-782-2821(代) FAX.022-782-3068

東京リスマチック株式会社

なんでも相談窓口

プリントデスク ☎ 0120-269-132

平日(月~金) 9:00~17:00 E-mail: support@lithmatic.co.jp



**Lithmatic**  
<http://www.lithmatic.net>

## HOT NEWS

# おすすめ番組情報

広報委員会  
が選ぶ!

いますぐチェック!

ジャグラ BB | Q



お話が面白い人にやね〜

カテゴリー>セミナー>営業向け

**講演**  
「AI時代に輝く”心のコミュニケーション”〜別府の魅力を伝える一休流の人間力〜」  
(Next-Oita 12月セミナー)

講師：花田 潤也氏

急速に発展を遂げている様々なAI技術。私たちがAI技術を活用するために一番必要なものは何なのか。“別府の一休さん”と呼ばれ地域の方々に親しまれている別府観光ガイドの花田潤也氏の講演です。



# 雑学コラム 野口聡の

## 47都道府県のお話 (その36: 宮崎県)

ジャグラ会報をご覧の皆様、こん〇〇は。ジャグラ東京・東  
グラ文京支部のアクティブ・野口です。

さて、今回取り上げるのは宮崎県です。

私のような関東の人からすると中々行く機会も少ない(私自身は過去1回)ので私的な宮崎のイメージと云うと高千穂峽・チキン南蛮・マンゴー・旭化成辺りですかね。そんな宮崎の事をつらつら書いていきますので、いつもながら少しの間お付き合い頂ければ幸いです。

さて、唐突に皆さんに質問です。千葉ならマキ、和歌山ならウバメガシ、茨城ならウメと云ったらこれ何の事だか分りますか?

在住の方ならご存知だと思いますが、これらはいわゆる「県の木」と云われるものです。で、宮崎県は? と言いますと3つありまして、まずはフェニックス(カナリーヤシ)です。確かにフェニックスは県外の私なんか頭にぼわわんとイメージするに南国にぴったりです(ダンロップ「フェニックス」トナーメントも開催されてますもんね)。

そのフェニックス、県民からの投票で県の木に決まったそうなのですが、それが決まってから今年2026年が丁度60周年だそうです。宮崎県のHPを拝見するとこの地に初めて植えられたのが大正の初期だそうで、時代が早くてね? そりゃ県民の

方もイメージ湧くよ。

で、ここからの2つは平成16年(2004年)に宮崎県で全国植樹祭が開催されたのをきっかけに県民の投票で追加されたモノなんだそうです。まずはヤマザクラ、こちらは県内の様々な場所に生育しているようで県民の皆さんにとっても愛着がある木の様です。これから春になってお花見のシーズンになりますが、なんとこの国には「日本さくらの会」なる公益法人があるそうで、その会が選定した「さくらの名所100選」なる一覧を拝見したところ宮崎県から1か所(都城市の母智丘(もちお)公園)が選定されているようです。お近くの方は3月下旬になったら行ってみたいは如何でしょうか。ま、多分すごい混雑でしょうが。

もう一つはオビスギです。この名前の「オビ」は「飢肥」、江戸時代の日向国(今の宮崎市南部・日南市)を治めていた飢肥藩の名前が付けられたものです。

実は宮崎県はスギの生産量が30年以上全国で1位(因みにスギのイメージが強い秋田は2位)だそうです。それほどスギと密接な関係にあるのです。元々は江戸時代の初期にこの地を治めていた伊東氏が家臣に命じて植林を始めたのがきっかけで、このスギは吸水性が少なく軽くて強度が高いという利点から当時は造船・現在では建築資材としての利用が進められているとの事です。確かにオビスギの名前は聞き及んでましたが生産量の話は今初めて知ったことで目から鱗でした。

さて、つらつら書いてきたコラムもこの辺りで。今月もお付き合い頂きありがとうございます。では今月の問題です。

**問題:** 弘法大師がその地で生誕したことから東寺や高野山と並んで師に因む三大霊跡として四国88か所の霊場の中でも特に由緒正しい場所になっている、多分皆さんも名前だけは知ってるであろうお寺はどこでしょう?

(正解は29ページ)

# アプリって割と簡単に作れるのです!



## 社内報アプリを導入する企業続々!

近年、社内報をアプリで配信する企業増加中!  
経営層からのメッセージや最新ニュースなどをリアルタイムで共有。  
コメント機能やアンケート機能など、デジタルが繋ぐ、広がるキズナ。

情報共有の迅速化

データ分析による効果測定

閲覧率・読了率の向上 & エンゲージメントUP



## 地域活性化を促進 デジタルスタンプラリー!

手軽に参加! 観光地や商業施設で、地域活性化や集客促進に! スマホがあれば、いつでもどこでも簡単に参加できます。参加者数や達成率などの効果測定もタイムリーにOK!

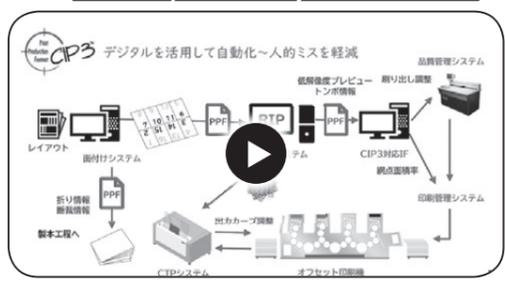
ちょっと覗いてみてください



**導入事例**  
山梨勝沼醸造 導入  
新商品ご案内やECサイトへの促しに活用中!  
JaGra様へ導入  
プッシュ通知で届ける、繋がる。旬な情報!

# オリジナルアプリ作成は 研美社にお任せを!

## これらの略語、なんだっけ...?



いまさら聞けない印刷業のDX基礎用語  
世の中のさまざまなメディアで見られる機会が多くなった「DX」という言葉。なんとなくわかっていような...わかっていないような...という印象を持つ方もいるのではないのでしょうか? 印刷業界のDX記事の中でも生産性向上や作業工程の効率化などでよく目にするアルファベットで表現される略語を取り上げて、解説をしています。

## BTubeへの映像データ募集中!

スマートフォンで簡単投稿!



投稿方法は  
こちらから→



# 経産省とハイレベル面談を実施 価格転嫁・取引適正化に向け要請

(一社)日本印刷産業連合会は11月28日、経済産業省本館で、小森卓郎経済産業大臣政務官、中小企業庁の山下隆一長官、同・坂本部長、小高課長、経済産業省文化創造産業課の荻野洋平室長が、印刷業界側から日印産連の磨秀晴会長はじめ、副会長らが出席し、ハイレベル面談を実施しました。

昨年6月13日に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2025」では、「賃上げこそが成長戦略の要」との考え方のもと、賃上げの原資を確保するための価格転嫁・取引適正化の推進が掲げられています。そのため、経産省として、各業界に対し賃上げの確保に向けた価格転嫁・取引適正化の取組の依頼を要請することが求められていることから行われました。

当日は小森政務官から、全産業共通として、①下請法違反がないか、各社が自主的に点検するよう強く促してほしい。下請法違反に関する「自発的申出制度」の活用、②下請法の改正に関する事前の周知や自主的な対応(特に手形払いの禁止、支払期日)、③受注者の利益を損ね、価格転嫁を阻害する商習慣の見直し、④直接の取引先のさらに先の取引先まで配慮した価格決定に努めるとともに、発注者から能動的に取引先に交渉を申し出ること、⑤自主行動計画の改訂および遵守、パートナーシップ構築宣言実施の呼びかけ、⑥「労務費転嫁指針」遵守の呼びかけの6項目が要請されました。

また、印刷業界に対するコメントとして以下4項目が要請されました。

1) 下請Gメンによるヒアリングでは一部で、「協賛金等の名目で代金が割り引かれて支払われる」という声が聞かれる。万が一違反のある場合には、受注企業が被った不利益の迅速な回復と、下請法違反に関する「自発的申出制度」の活用を検討していただきたい。

2) 印刷業界は、半分以上の取引のサイトが60日を超えており、ヒアリングでも、「支払いは納品から90日後」という声も聞かれている。ぜひ、業界として現金支払い率の向上と支払サイト短縮について、より一層の周知徹底の取組をお願いしたい。

3) 印刷業界は「契約上、発注者が指定した製本所への運賃や荷下ろしのコスト・補償などが受注者負担となっており、契約の見直しに応じてもらえない」「サンプルの費用

負担は下請側が持つことが慣例になっている」「短期での印刷・封入に対応するため深夜や休日に待機することがある」との声も聞かれる。ぜひ、業界だけでなく、発注元となる他の業界に対しても協力要請をお願いしたい。

4) R7年3月の調査では、価格交渉の実施状況の数字は、他業種と比べて低くなっており、「発注減少や取引停止を恐れ、交渉を申し出なかった」という声も聞かれる。これまで以上に、価格交渉しやすい環境の醸成に、ご協力をお願いしたい。

印刷業界側からは磨会長が以下6項目について言及しました。

1) 価格転嫁・取引適正化の重要性は十分に認識しており、経済産業省からの6つの要請を真摯に受け止め、責任をもって会員企業に周知・徹底を図って参りたい。

2) 「**価格交渉**」が進まない要因としては、発注元も本業の原材料費・労務費・光熱費が値上がりしている中、印刷代のコストダウンを目的に、最近になって「相見積もり」が増えてきており、価格競争に陥りやすい状況にある。

3) 「**価格転嫁**」が進まない要因として、印刷産業は受注産業であり、「**サプライチェーンの頂点**」となる得意先業界や**発注元の大企業**に対して、今回の要請の趣旨を浸透させることが重要となる。発注元の業界によっては(出版業など)、協定単価や契約書に縛られて、修正代や横持ち運賃などコストがかかっているのに請求できない項目も多々あり、従来からの取引慣行や契約書そのもの見直しが課題である。価格転嫁が進まない業種については、日印産連として対象業界団体に対して、価格転嫁と商習慣の見直し等、取引適正化の協力要請を働きかけ、ご理解いただけるよう努めて参るので、経済産業省様からもご指導、ご支援をお願いしたい。

4) ご指摘いただいた**支払い手段の現金化・支払サイトの短縮**については、下請法改正の事前セミナーや、全国銀行協会による「紙の手形の利用廃止」に関する事前説明会など、運営委員会や機関誌・ホームページ等での周知徹底に取り組んでいる。また、直近11月のフォローアップ調査では、手形等の支払いサイトが60日を超える割合は、18%と大幅に改善しており、「**取適法**」が施行される来年1月以降は0%になるよう、さらなる周知を図って参りたい。

5) また、**パートナーシップ構築宣言の推進**に取り組んでおり、印刷業の登録数は1,337社。日印産連の役員企業34社の宣言率は、今年6月の調査・公表時点では56%だったが、役員企業の社長に対面訪問して宣言を要請した結果、現時点(11/27)で85%、年内に100%を達成する見込みである。さらに、大手・中堅企業が中心で「発注者」側の立場にある印刷工業会については、会員80社全社の宣言を目指し、業界全体に宣言の要請を強化して参りたい。

6) 地方の中小印刷会社は、「**官公需**」の**仕事の比率が高く**、その多くが価格重視の「**一般競争入札**」となっている。各種費用が値上がりしている現状で、落札価格は逆に前年より下がっている実態があり、「**入札制度**」において価格転嫁は至難の業である。「**最低制限価格制度**」の**予定価格と最低制限価格の算出**においては、原材料や労務費等の公的データに基づく値上がり分を是非反映していただくよう、各自治体に対してさらなる周知徹底・ご指導をお願いしたい。あわせて、情報セキュリティ対策や環境配慮活動等の付加価値が価格に反映されない現状もあり、プライバシーマーク認定取得や環境関連の認定取得を「**入札要件**」に加えること、並びに**地元優先発注の促進**についても、各自治体に対しご指導をお願いしたい。

意見交換では

・印刷産業の出荷額はデジタル化の進展によってピークの約9兆円から5兆円に市場がシュリンクしており、我々印刷産業も事業ポートフォリオの変革を進めなければならないという構造的な課題がある。しかしながら、中小規模の印刷会社(19人以下が8割を占める)では、人材的にも資金的にも限界があるため、行政の支援をお願いしたい。

・(TOPPANの社長として)社長名で全取引先に対し「**価格転嫁交渉の申出**」の文書を3回にわたって発信した。他の大手印刷会社にも同様の取組を要請して参りたい。

・自治体については、賃上げは要求されるが実際は官公需の落札価格が下がってしまっているのが実態である。なかでも昨年の落札価格の下回りはあり得ないことであり、改めて政府からの指導をお願いしたい。

・賃上げの価格転嫁は印刷関連業者間の問題よりも、このサプライチェーンの上流にある印刷関連製品を発注している企業や官公庁が価格転嫁に積極的でないようなことが問題だと推測される。

・発注元企業の経営者は本価格転嫁の必要性を理解していても、その企業の資材発注担当のミッションの一つがコストダウンである限り、価格転嫁の実行は難しいと推測されるため、経営者から発注部門の担当者全員に対する方針の周知徹底が重要である。

## 〈参考資料〉印刷業界の価格交渉・価格転嫁の実態

〈フォローアップ調査結果\_2025年3月(6月公表)〉

価格交渉の実施状況:

30業種中26位(前回27位、0.4pアップ)

価格転嫁の実施状況:

・発注企業では30業種中21位(前回18位、0.8pダウン)

・受注企業では30業種中14位(前回7位、2.1pダウン)

支払条件の状況:

・支払手段は、現金支払いの比率が低い(30位、発注側62.7%、受注側79.1%)

・支払サイトは、60日以内の比率が低い(25位、発注側49.8%、受注側55.6%)

・割引料負担は20位、支払手数料負担は16位

〈フォローアップ調査結果\_R7年11月実施(発注企業対象)〉

価格交渉の実施状況:

全ての、または多くの(100~81%)発注先と協議した/66%、一部の(80~41%)発注先と協議した/26%、計/92%

価格転嫁の実施状況(コスト全般の変動):

全て、または概ね(100~81%)反映した/68%、一部の(80~41%)反映した/23%、計91%

価格転嫁の実施状況(労務費の変動):

全て、または概ね(100~81%)反映した/57%、一部の(80~41%)反映した/23%、計80%

支払条件の状況(直近1年間):

・支払手段 全て(100%)現金払い/47%、現金は50%以上/29%、計75%

・手形等の支払いサイト 60日超/18%

〈全印工連「価格転嫁アンケート」調査結果

R7年10月実施(回答数:171社)〉

価格交渉の実施状況:

発注先に申し入れ、協議した/75%

発注者から協議の申し入れがあった/5%

価格転嫁の実施状況(コスト全般の変動):

全て、または概ね(100~81%)反映した/19%

一部の(80~41%)反映した/42%、計62%

価格転嫁が進まない業種:「印刷・同関連業」「地方自治体」

「印刷業以外の製造業」「教育・学習支援業」「広告業」

転嫁率0%が多い業種:「国(出先機関含む)」「地方自治体」

「出版業」

料金をいただけていない項目:「予定回数以上の校正代」「修正代」「横持ち運賃」「実数予備分の印刷・製本代等」

「支払条件」の状況(直近1年間):

・支払手段 全て(100%)現金払い/46%

手形等の支払いサイト 60日超/26%

# SPACE-21 広報部 Next-Oita

日時：令和7年12月6日(土曜日)

# 12月セミナー報告

場所：J:COM ホルトホール大分 202 会議室  
Next-Oita 事務局 薬師寺 順平  
(株)キューブリント大分



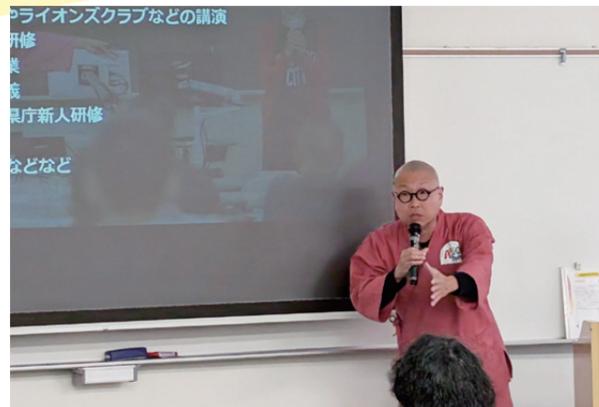
令和7年12月6日、Next-Oita 恒例の12月セミナーを開催しました。今回の講師には、大分ヤクルト販売株式会社の経営企画室観光推進事業部から花田潤也氏をお招きしました。演題は「AI時代に輝く“心のコミュニケーション”～別府の魅力伝える一休流の人間力～」でした。

花田氏は熊本県出身でありながら、別府の豊かな自然と文化に魅了され単身で移住を決意。ゲストハウスを営む傍ら、別府市や観光協会、商工会議所など多方面からオファーを受け、通称「別府の一休さん」として地域密着型の活動を行っています。現在は地元メディアでも引っ張りだこでレギュラー番組もお持ちです。

Next-Oita は、目まぐるしくAI技術が発展する現代において、私たちがこの技術を有意義に活用していくために今必要なのは、ソフトの操作方法ではなく、人を知り人の心を動かす力、まさに人間力だと考え、人間同士のコミュニケーションがどれだけ重要なのか、コミュニケーションによって何が生まれるのかを発信していただきたく、花田



挨拶する Next-Oita の佐藤会長



講師の花田氏

氏に講師をお願いいたしました。

花田氏は、別府の観光資源を最大限に活かすためのアプローチや、その中で培った人と人とのつながりの大切さを強調し、実際の成功例を交えながら、「相手の五感を意識しているか?」「相手の今日一番の楽しみを聞いているか?」「自分の言葉に温度があるか?」など、AI時代だからこそ「人間臭さが武器になる」とお話しセミナーは終了しました。

参加者からは「AI時代における人間力の重要性が再確認できた」との声や、「別府の地域資源の新たな発見があり、非常に有意義だった」との感想をいただきました。

今回のセミナーが、AI時代のコミュニケーションのあり方について再考する良い機会となってくれたら嬉しいです。

Next-Oita は、今後もこのようなセミナーを通じて、情報交換やネットワーク作りの場を発信できたらと思います。次回のセミナー企画にもぜひご期待ください。



18時からは場所を移し、大分県支部合同懇親会をふく亭にて開催し、交流を深めるとともに、大分の名物である河豚を楽しむ時間を設けました。

毎年、ゲームやクイズを行い、賑やかな雰囲気を作り出していましたが、今年は参加者の皆様にリラックスしていただくため、このようなアクティビティは行わず、じっくりとお食事を楽しんでいただきました。河豚の美味しさを堪能しながら、参加者間の親しみを深めることができたのではと思います。

参加者数も年々増加しており、今年は改めて参加者同士の情報交換・交流をはかるため、各支部単位で数分、自己



紹介の時間を設けました。参加された皆様のご自身の経験や専門分野をシェアすることで、より深い理解と絆が生まれましたことと思います。

次回のイベントで再びお会いできることを楽しみにしています。

セミナー参加者 34名、  
懇親会参加者 31名。



Next-Oita 第10期 12月セミナー  
演題「AI時代に輝く“心のコミュニケーション”  
～別府の魅力伝える一休流の人間力～」 講師：花田潤也氏  
2025.12.6(Sat) at J:COM ホルトホール大分

# Report

## バリヒューマンリソース戦略フォーラムに出席 印刷業界の人手不足と外国人材活用について講演

12月12日（金）、インドネシア・バリ島のプラマサヌールビーチホテルで、人材育成派遣事業などを展開するキャレオス株式会社が主催する「バリヒューマンリソース戦略フォーラム」が開催され、日本から外国人材の雇用や受け入れなどを行う団体、企業など88名と、インドネシアの政府関係者10名近くが参加しました。同社からの招待を受け、ジャグラから岡達也副会長と田中が出席しましたのでご報告します。

同フォーラムは現地時間13時より開会しました。オープニングセッションで同社の藤井克樹社長が歓迎の言葉を述べ、日本語学校職業訓練校フジアカデミー開校から8年を振り返りつつ、インドネシアの状況として人口が年率20%で増加しており、医療やデジタルの強化、低価値から高付加価値への転換、グローバル人材の育成の3つの課題を挙げました。そのうえで、同社としてハイテクへの投資、職業訓練校の連携強化、知識労働力の質的向上を推進していく方針を打ち出しました。

引き続き、藤井社長、インドネシア移民労働者保護省プロモーション総局長のDwi Setiawan Susanto氏、労働省労働大臣顧問のMuhammad Arfian氏、国際協力機構の西田基行氏が登壇し、『両国で「共に育て共に豊かにするためのキャリア形成」を実現する』をテーマにパネルディスカッションが開かれました。パネルディスカッションでは、インドネシアの若者の①専門性の習得、②仕組み・連携の強化、③キャリアの創造の3つの課題を挙げながら、日本とインドネシアの関係はインターンや就労の問題だけでなく、持続可能なエコシステムを構築していくことが必要だと強調。技術・語学・態度の人的資本開発と、インドネシアの技能認証と日本の評価基準を満たすためのシステムの標準化、カリキュラムなどのスキーム整備の重要性を訴求しました。

最後に労働大臣顧問が今回のイベントに関して、「より

質の高い持続可能で価値のある協力関係を築くための一歩となる」と評価しました。

キーノートスピーチでは、ALSOK介護株式会社の加賀肇取締役が『ALSOK介護の「人材確保・育成」と外国人介護士の考え方について』、公益財団法人国際労務管理財団の池田英人理事長が『他国における連携強化取組みとインドネシアへの期待』を演題に講演。また、キーノートセッションでは、カイハラ産業株式会社の寺田康洋生産本部長、マルト製菓株式会社の戸田昌宏社長、PT.Shield-On Service Tbkの河村明取締役、Trust&Trust株式会社の中山平祐社長がそれぞれ自社の取組みについて紹介しました。

フォーラム後半はトークセッションと分科会が開かれ、トークセッション1『送出国での業種特化人材育成取組みについて』では、住友林業グループのスマリンビジネスサービス株式会社の今井透人財ビジネス事業部長、房総振興協同組合の神崎光常勤理事、秀真産業協同組合の水元隆司事務局長、圏友協同組合の渡邊英一代表理事とジャグラから田中が登壇しました。

セッションでは田中から『業界コンソーシアムでの「印刷人材」育成の取組みについて』をテーマに、日本の印刷業界における人手不足と外国人材の活用について説明し、インドネシア人財への期待を述べました。

フォーラム中盤には、インドネシア保健省と公益社団法人青森県老人福祉協会、キャレオスの3者による「日本介護福祉士の就労資格取得を目指した介護福祉士分野の医療専門家の養成」などの基本合意書調印式が執り行われました。

フォーラム後の懇親会終了後、そのまま空港に向かい深夜便で帰途につきましたが、日本の様々な業種における外国人材活用の現状を学ぶ機会となりました。



キャレオスの藤井社長

NEWS

## 業界の動き

業界

### 10団体で賀詞交歓会 2026年のスタートを切る 日産産連

日本印刷産業連合会の新春賀詞交歓会が1月7日、ホテルオークラで開催されました。ジャグラからも会長をはじめ、東京、関東の理事、支部長らが出席しました。宴もたけなわで岡本会長も登壇し、恒例の10団体会長による中締めが行われました。

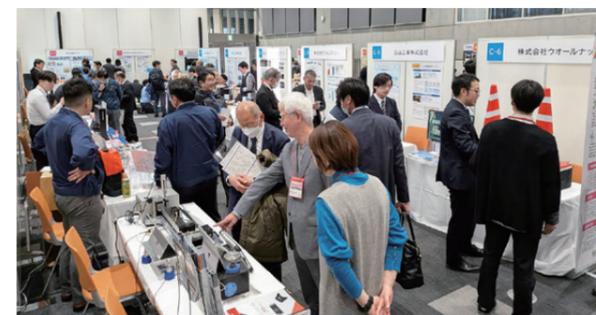


ジャグラ

### ジャグラコンパスをPR 防災ツールで技術交流 地域活性化委員会

東京都立産業技術研究センターが主催する「東京イノベーション発信交流会2026」が1月16日、東京都江東区の同センター本部・イノベーションハブで開催され、地域活性化委員会が出展しました。

同交流会は毎年多様な連携によるオープンイノベーションを促進することを目的で開催されており、今回、「防災・減災技術」がテーマだったことから、ジャグラコンパス避難場所マップの開発を委託したステラリンクからの声掛けを受けて実現しました。



当日はブースでジャグラコンパスの考え方や活用方法などを紹介したほか、出展者発表では地域活性化委員会の齋藤秀勝委員長が聴講者にジャグラコンパスを説明しました。

ジャグラコンパスPRだけでなく、産官学連携による避難場所マップのさらなる活用法などについて、意見交換もでき有意義な時間となりました。



ジャグラ

### 新春講演会と新年交歓会を開催 主賓に岡本会長、 講師で岸生産性向上委員会副委員長来盛 岩手県支部

2026年1月16日（金）盛岡市のホテルロイヤル盛岡で「新春講演会・新年交歓会」を岩手県印刷工業組合様と合同で開催しました。新春講演会 講師として生産性向上委員会副委員長の岸 昌洋様（株式会社 代表取締役）をお迎えし「PODの自動化及び無人化運用による生産性向上への取り組み」と題して1時間半にわたって充実した内容での講演を拝聴しました。続けて新年交歓会には会員他、ご来賓、関連業様併せて68名にご参加を賜り、主賓支部長の主催者挨拶の後、主賓挨拶として岡本会長よりユニークかつ勇気を頂ける力強いお言葉を頂戴し、今後の支部としての会員拡大活動に大いに弾みを付けられました。衆議院議員 階 猛様による乾杯のあと、相互に交流と親睦をより深めることが出来ました。



印刷業界の外国人材活用を説明する田中  
(インドネシアの伝統衣装パティックを着て)



バリヒューマンリソース戦略フォーラム

イベント

スマートソリューションフェア 2026 開催  
ホリゾン

ホリゾン・ジャパン株式会社は、1月21日から23日までの3日間、東京支社ショールームで「ホリゾン・スマートソリューションフェア 2026 新春 in 江戸川」を開催しました。

イベントの大きな柱となったのは、「中綴じ製本からクラフト梱包までの自動化ソリューション」です。デジタル印刷向け中綴じ製本システム「ICE STITCHLINER Mark V」を中心としたラインでは、冊子サイズや厚みに応じた自動調整が行われ、製本後の工程には、富士油圧精機の「小型自動クラフト梱包機（マルチパック）ロールタイプ」が接続されていました。新方式により、困難であった中綴じ冊子の自動クラフト梱包が可能となり、梱包物の高さに応じたテープ貼り付けまでが自動化、後工程には協働ロボットによるパレタイズシステムが配置され、製品の積み上げが行われていました。

最終工程では、自立走行搬送ロボット（AGV）「HIKROBOT」が製品を次工程へ搬送する実演が行われ、製本から物流に至る一連の無人化モデルが披露されました。

また、高付加価値製本への対応として、イタリア スマイル社製の半自動糸かがり製本機「SMYTH FX-50」が公開されました。これは、小ロットのデジタル印刷物や、高品質な上製本の需要に対応し、開きやすい高品質な製本を、効率的に実現するソリューションとして注目を集めていました。

このほか、次世代型無線綴じ機「ICE BINDER BQ-500」や、ポストプレマネジメントシステム「ICE LINK」による工程全体の可視化、最適化も紹介されていました。



寄稿 文伸

「東京諸島アンテナショップ」の進化とチャレンジ  
株式会社 文伸 営業統括 ゼネラルマネージャー 武藤 毅  
新たなビジネスチャンスの拡大を狙った企画

この企画は東京都商工会連合会様の島嶼魅力発信事業として、2020年から島嶼エリア（東京諸島）の小規模事業者などの販路支援でスタートしました。

今回で8回目の受注となった「東京諸島アンテナショップ」は、ぽっぽ町田（11/28～12/14）で昨年に続き出店後、初めて多摩エリアを飛び出し、人気観光地である浅草の「松屋浅草店（12/17～25）」に出店しました。

Xmas 商戦シーズンの百貨店での一等地での開催に、プレッシャーを感じましたが、予想を上回る成果を上げることができ、ホッとしたところでした。浅草開催は、文伸にとってチャレンジな企画と言えました。

また今回は外国人で賑わう浅草での開催だったので、インバウンドを意識した企画（東京諸島パネル展 & 伊豆大島ワークショップ）を雷門前の浅草文化観光センターで同時開催しました。



復興支援パネル & 義援金箱

パネルは英語版も含め、弊社で制作できたのは大きかったです。

今回は都心の百貨店、インバウンド対応、島酒の試飲販売など進化した企画にチャレンジしました。そして、10月の八丈島・青ヶ島の台風直撃被害に対しても、タイムリーに八丈島・青ヶ島のコーナーを設け、特産品の販売はもちろん、義援金を募る復興支援も実施できました。

浅草での開催は今までにない、様々な反響があり、今後に期待できる新たなビジネスチャンスの拡がりを得られました。

最後に、このアンテナショップにお力添えを頂いた皆様に感謝いたします。



浅草文化観光センター  
東京諸島パネル展



盛況だった試飲コーナー



装飾に凝った松屋浅草売場風景

事務局日誌と  
今後の予定

最新情報はHPでご確認ください

1月の事務局日誌

- 7日 理事会（Web会議） 日印産連新年交歓会（オークラ東京）
- 8日 広報委員会（Web会議）
- 13日 Pマーク現地審査（鹿児島）→今田
- 14日 Pマーク現地審査（鹿児島）→今田 東京グラフィックス理事会
- 15日 環境表彰制度検討WG（印刷会館）→田中専務  
日印機工年始会（東京プリンスホテル）→田中専務  
茨城支部新年会→尾形副会長、田中専務 Pマーク現地審査（山梨）→今田  
OGS新年互例会→岡本会長
- 16日 東京イノベーション発信交流会→齋藤理事、田中専務  
岩手県支部新年会→岡本会長 Pマーク現地審査（東京）→今田
- 19日 東グラ新春賀詞交歓会→岡本会長、田中専務
- 20日 会員拡大委員会（本部）
- 21日 ジャグラコンテスト委員会（Web会議） 秋田県支部新年会→岡本会長
- 22日 ホリゾンスマートソリューションフェア→田中専務、笠原
- 23日 作品展委員会（Web会議） 神奈川県支部賀詞交歓会→田中専務
- 26日 愛知県支部新年会→岡本会長、田中専務
- 28日 Pマーク審査会・個人情報保護委員会（本部） 秋田県支部新年会→岡本会長  
日印産連ステコミ（印刷会館）→岡本会長、田中専務
- 29日 地域活性化委員会（Web会議）
- 30日 Pマーク現地審査（東京）→今田 サステナブル委員会（Web会議）  
ジャグラショートカット運営委員会（Web会議）

2月のスケジュール

- 3日 Pマーク現地審査（神奈川）→今田、笠原  
GP部会（Web会議）→田中専務  
業態進化委員会（Web会議）
- 6日 広報委員会（Web会議）
- 7日～8日 北陸地協総会・新年会（石川）→田中専務
- 9日 日印機協情報交流会（出版クラブ）→田中専務
- 13日 作品展委員会（Web会議）→田中専務  
Pマーク現地審査（愛知）→今田、笠原  
サステナブル委員会（栃木）→笠原
- 17日 委員長会議（Web会議）
- 18日～20日 page2026
- 19日 ジャグラショートカット運営委員会（Web会議）
- 20日 SPACE-21 全国交流キャラバン（山梨）→笠原
- 25日 生産性向上・MIS研究合同委員会（本部）  
地域活性化委員会（Web会議）
- 26日 Pマーク現地審査（高知）→田中専務  
ジャグラコンテスト委員会（Web会議）
- 27日 Pマーク現地審査（高知）→田中専務

3月のスケジュール

- 2日 広報委員会（Web会議）  
70周年記念誌編集委員会（Web会議）
- 3日 会員拡大委員会（Web会議）  
正副会長会議（Web会議）
- 4日 Pマーク審査会・個人情報保護委員会（本部）
- 11日 産連ステコミ→岡本会長、田中専務
- 17日 JPA、東印工組 合同セミナー（茗渓会館）→岡本会長、田中専務、笠原
- 18日 日印産連理事会（Web会議）→岡本会長
- 19日 理事会（本部）

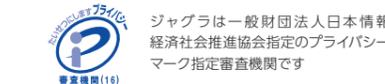
事・務・局・便・り

2月といえば節分ですね。豆まきで『鬼は外、福は内』と言いますが、実はこの『鬼』、昔は目に見えない『病氣』や『災難』、そして自分の心の中にある『弱気』を指していたそうです。立春を迎え、暦の上では春が始まります。新しい季節を気持ちよくスタートさせるために、まずは自分の中にある『面倒くさい』や『後回しにしよう』といった小さな『鬼』を外に追い出して、良い運氣と仕事の成果を呼び込みたいものです。（阿部）

※「事務局便り」は本部事務局員が交替で執筆しています

月刊『グラフィックサービス』891号

■発行日 令和8年2月10日（毎月1回）  
■発行人 岡本 泰  
■編集人 本村 豪経  
■発行所  
一般社団法人  
日本グラフィックサービス工業会 略称ジャグラ  
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16  
電話 03-3667-2271 ファクス 03-3661-9006  
ウェブ https://www.jagra.or.jp/



■編集部宛メール edit@jagra.or.jp

◎企画：ジャグラ広報委員会

担当理事  
神山 明彦 愛知・(株)カミヤマ / 副会長  
委員長  
本村 豪経 福岡 / アイメディア(株) / 理事  
委員

東海林正豊 秋田 / (株)東海林印刷  
谷山 和也 東京 / 菁文堂(株)  
野口 聡 東京 / (株)アクティブ  
小澤孝一郎 山梨 / (株)オズプリンティング  
安達 睦男 大分 / (株)舞鶴孔版  
瀬尾 淳 広島 / (株)広瀬印刷  
三宮 健司 高知 / (株)三宮印刷  
佐藤 愛子 大分 / (株)クリエイツ  
西谷 毅 東京・文京 / 西谷印刷(株)  
松谷 勝広 東京・文京 / (株)松谷メールサービス  
笹井 靖夫 東京・文京 / 共立速記印刷(株)  
田中 良平 専務理事

◎原稿・編集・校正  
田中 良平 阿部奈津子 今田 豪  
長野未奈美 笠原賢一郎

以上、ジャグラ事務局

◎渉外 田中 良平  
◎広告 田中 良平  
◎Web 阿部奈津子  
◎動画 今田 豪

◎組版 (株)クリエイツ (大分県支部)  
DTP = Adobe CC ほか  
フォント = モリサワ OTF / モリサワ BIZ+ ほか

UD FONT by MORISAWA ※本誌の一部にユニバーサルデザインフォントを使用しています

◎製版 / 印刷 (有)西村啓写堂 (高知県支部)  
RIP = FUJIFILM WORKFLOW xmf  
CTP = Luxel T-6300 (自現:富士フィルム XP-1310R)  
刷版 = FUJIFILM SURERIA XP-F  
印刷機 = RYOBI 924D  
インキ = 東洋インキ  
用紙 = 三菱ニューVマットA判 57.5kg

Copyright 2026 JaGra  
禁断引用  
※本誌記載の製品名は一般に各メーカーの登録商標です  
原則、TMや®マークは省略しています  
※乱丁 / 落丁本はお取り替えいたします

【雑学コラムお題の答え】 普通寺

# RMGT-CSPI

## ともに創る印刷の未来



### RMGT-CSPIが

### SDGs達成をアシスト



印刷会社のSDGs達成のためのソリューションを提案、具現化するRMGT-CSPI。  
各分野の企業が連携し、お客さまに寄り添いながら課題を解決・サポートします。

